

まち探訪

宇宙へのプラットホームを目指して 大樹町



大樹町基礎データ

総人口 (住民基本台帳)	5,695人※1	漁獲高 (金額ベース)	1,203百万円 (H27)
老人人口	1,957人	製造品出荷額等	14,670百万円※3
老人化率 (65歳以上)	34.4%	卸・小売年間販売額	13,409百万円※4
世帯数	2,691世帯※2	一般会計規模	6,102百万円
人口密度	6.98人/km ²	町の花	コスモス
面積	815.68km ²	町の木	かしわ
農業産出額	13,850百万円	町の鳥	ヒバリ
※1 H29.5		※3 H26工業統計	
※2 H29.5		※4 H26商業統計	

問合せ先：大樹町企画商工課航空宇宙推進室推進係 電話01558-6-2113

大樹町の紹介

大樹町は、道東十勝総合振興局の南部に位置し、西は日高山脈分水嶺、東は太平洋に面し、日本一の清流歴舟 (れきふね) 川が65kmにわたり大樹町の中央を流れ、肥沃な大地と豊かな漁場による農業と漁業のまちです。

農業は酪農が中心で、2万頭の乳牛から生産される生乳を原料に、雪印メグミルク大樹工場で、さけるチーズやカマンベールチーズ

などの製品となって全国にお届けしています。

漁業は大宗を占める秋鮭定置網漁の他、シシャモ、ホッキ、毛ガニ漁が盛んで、札幌や関東方面に出荷されています。

1984年 (昭和59年) 北海道東北開発公庫 (現日本政策投資銀行) が発行した「北海道東北21世紀展望報告」の中に、東側が海に面した太平洋沿岸であって広大な土地を有し、母都市がある地域が航空宇宙産業基地の適地との記述があり、この条件に合うのは大樹町を中心とする十勝沿岸だけということで、町は航空宇宙産業基地誘致に乗り出し、北海道も長期総合計画戦略プロジェクトに「北海道航空宇宙産業基地構想」を組み込むなど誘致活動を開始しました。

航空宇宙関連実験のフィールド 大樹町多目的航空公園

この頃、航空宇宙関係の研究者の間で、実験専用の滑走路があれば色々な航空宇宙関連実験ができる、日本にはそういったフィールドが必要との声が多くあり、1995年 (平成7



ブランド鮭 樹煌士 (きこうし)

年) 町は1,000m滑走路を核とした大樹町多目的航空公園を整備、当時開発中だった日本版スペースシャトルHOPE関連実験などが行われるようになりました。

実験をするのは科学技術庁航空宇宙技術研究所(現JAXA^{*1})の研究者とパイロット、整備士など10名~15名ほどで、2週間ほどの滞在で年数回行われました。

多目的航空公園では、大学や他の研究機関、民間業者の無人機開発や騒音の研究などが行われるようになり、宿泊や飲食などで町の経済効果も目に見えるようになってきました。

2004年(平成16年)に実施された成層圏プラットフォームプロジェクト^{*2}は、JAXAとNICT^{*3}が共同で、大型の無人飛行船を上空4kmに滞空させ、地上と通信、放送、監視などの実験を行うもので、前年、多目的航空公園内に大型の格納庫、飛行管制棟、気象観測施設などが整備され、ピーク時には100人程のスタッフが滞在し、飛行実験を行いました。

その後は、大気球実験^{*4}が行われることとなり、大型格納庫などの施設はJAXA管理のもと、大気球実験をはじめ航空機関連実験などで使用されています。

小型ロケットから宇宙ロケットへ

2001年(平成13年)から、多目的航空公園の北側に広がる原野では、小型ロケットを高度1kmほど打上げる実験が行われるようになり、北海道産ロケットCAMUIや東海大学ハイブリッドロケットがほぼ毎年打上げられています。

このような中、ホリエモンこと堀江貴文氏ら有志でロケット開発をしている「なつのロケット団」が、2011年(平成23年)自作のロケットエンジンを用い、大樹町で打上実験を実施、2013年(平成25年)民間で衛星打上げ

サービスを目指すインターステラテクノロジー(株)を大樹町内に設立、宇宙空間に達するロケット開発を続けています。

5月末に宇宙空間に達するために必要な120秒間の燃焼試験に成功し、現在は機体製作に取りかかっており、年内にも100kmの宇宙空間に達するロケット打上げが行われようとしています。

国の宇宙政策の転換

戦後、糸川英夫博士のペンシルロケットから始まった日本の宇宙開発は、研究開発が中心でしたが、欧米の民間参入、中国、インドの急速な宇宙進出などもあり、2008年(平成20年)、日本の宇宙政策を、産業振興、安全保障、科学技術の3本柱で推進することとする宇宙基本法が成立、これまで国が行ってきたロケット打上げに民間も参入できるようにした宇宙活動法、衛星データの管理を規定するリモートセンシング法が昨年成立しました。

また、宇宙基本計画では、「我が国の宇宙機器産業の事業規模として10年間で官民合わせて累計5兆円を目指す。我が国の宇宙システムの抗たん性の観点から、射場の在り方に関する検討に平成27年度から着手する。」とされています。

新たな射場を目指して

このような国の動きの中、30年以上誘致活動を続け、ロケット開発に取り組んでいる民間企業もある大樹町は、新たな射場の候補地として脚光を浴びています。

(株)日本政策投資銀行と北海道経済連合会の共同調査で、大樹町に新射場を整備した場合の道内経済波及効果(射場建設コストを除く)は年間267億円と推計され、産業や観光の

振興発展に大きなインパクトを与え、雇用増大が見込まれるなど、地方創生、北海道発展の起爆剤として大いに期待されるところです。

新射場を軸として、宇宙関連産業（衛星情報サービスほか）、関連研究機関、観光施設などが集積し、十勝はもとより北海道全体が活性化することを目指して、これまで以上に誘致等の活動を進めてまいりたいと考えております。

多目的航空公園には、これまでに使用したロケットや大気球模型などを展示している大樹町宇宙交流センターSORA^{*5}があります。どなたでも自由に見学ができますので、大樹町が衛星打上げや宇宙旅行など宇宙へのプラットフォームになる日を楽しみに、皆様のお越しをお待ちしております。

- ※1 JAXA 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
- ※2 成層圏プラットフォームプロジェクト 成層圏に無人飛行船を定点滞空させ、通信・放送、地球監視などに利用するプロジェクト
- ※3 NICT 国立研究開発法人 情報通信研究機構
- ※4 大気球実験 直径100mにもなる薄いフィルムでできた気球をヘリウムガスで上空30km～40km程に打上げ、



大気球実験

大気観測や宇宙観測、微小重力実験などを行うもので、2008年から大樹町で実施している。

- ※5 大樹町宇宙交流センターSORA 入館無料
開館 平成29年は、4月29日～11月5日まで 10:00～16:00



カムイロケット打ち上げ



大樹町多目的航空公園



大樹町宇宙交流センターSORA